地歴公民(日本史)　関西学院大学　全学部日程（２／１実施）　１／２

＜全体分析＞

試験時間　60　分

解答形式
全問マーク式
分量・難易（前年比較）
分量（減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加）
難易（易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化）
出題の特徴や昨年との変更点
例年通り〔Ⅰ〕で文章正誤問題が出題され、〔Ⅲ〕で史料問題が出題された。
〔Ⅱ〕～〔Ⅳ〕（小問数30）のうち、文章４択は18問（そのうち「なければエを選べ」の形式は４問）、年代整序は３問出題された。
時代別では、近代が４割程度、古代が２割程度、中世が１割５分程度、原始・戦後が各１割程度で、近世の出題は数問にとどまった。
分野別では、政治が４割程度、社会経済が３割５分程度、文化が１割５分程度、外交が１割程度出題された。
その他トピックス
〔Ⅲ〕史料Ａは、2023年度 河合塾テキスト 基礎シリーズ『完全習得タイム』第13講3がズバリ的中。

＜大問分析＞

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
〔Ⅰ〕	正誤 文章	原始～戦後 総合	原始～戦後の総合問題 10. b. では「三種の神器」の白黒テレビの普及率がカラーテレビの普及と共に低下することを想起したい。ほとんどの文章が標準的知識で対処可能であるため、とりこぼしに注意したい。	標準
〔Ⅱ〕	選択 空欄４択 文章４択 組合せ	原始・古代 社会経済	Ａ　弥生時代の水稲耕作 Ｂ　10世紀の律令体制の変革 Ｃ　寄進地系荘園の成立と展開 北海道・南西諸島の文化を問うた２. は消去法を利用してもやや難。６. で問われた地方支配、７. で問われた徴税体制、９. で問われた荘園の特権、10. で問われた公領のあり方などについては律令制下の民衆支配などに関して整理できていたか否かで差がついたかもしれない。	標準
〔Ⅲ〕	選択 空欄４択 用語４択 文章４択 組合せ ＜史料＞ ＜図版＞	中世・近代 社会経済・政治	Ａ　加賀の一向一揆（『蔭涼軒日録』） Ｂ　士族の商法（『仮名読新聞』1877年３月８日号） Ａ：史料中の「越前の合力勢」や「一揆衆二十万人…城を攻め落とされ」などの表現から加賀の一向一揆の史料と判断したい。 Ｂ：1877 年の記事であることや史料の注などもヒントにして西南戦争の史料と判断したい。10. アは図版左端人物の家紋「丸に十字」から島津氏を想起し、イは右端と中央の台詞、ウは史料の「世間が騒々敷い」などから判断して解答を導きたいが、難しかった。	難

© 河合塾　2024年

〔Ⅳ〕	選択 空欄４択 用語４択 文章４択 年代整序	近代・戦後 文化	近現代の活字メディアの発展と統制 標準事項を中心とした出題であるため、本学頻出の近代の文化や戦後史の対策如何で差がついたかもしれない。	易

※難易度は５段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

学習対策の要は、文章正誤問題・史料問題・近現代史の３点にある。

①〔Ⅰ〕の文章正誤は２行程度の文章が定着し、正誤の判断基準も明確である。ここでは正文の詳細な記述に惑わされず、誤文を特定できる力を身につけることが重要である。また、文章４択問題が多数出題されるので、歴史事項の内容・時期の理解に力点をおいた学習が必須である。なお、選択肢の文章は教科書に準拠した表現が多いので、教科書本文だけでなく脚注・コラム・図版の説明にも留意して対策を進めたい。

②史料問題は必ず大問１題出題される。頻出史料の占める割合が高いので、教科書とともに市販の史料集や河合塾の講習などを利用して、史料の内容把握を中心とした学習を心がけること。

③近現代史からの出題が多い。文化史も含めて近現代史の対策を怠らないこと。

④同一のテーマや事項が繰り返し出題される傾向がある。文章正誤や史料問題などの形式に慣れておくためにも過去の入試問題の研究（５年分くらい）を怠らないこと。

© 河合塾　2024 年